

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

平成21年から地域への問いをテーマに書き続け、今回200号を迎えたが、書き尽せない日々の連続だ。地域を見つめる日々の中

で、地域を担うスタッフの行動や発信される情報に気になる事が多くなってきた。知人に尋ねても同様な返事だ。

私の好む言葉に「大概」という言葉がある。熱意・やる気・決意などと同じ意味を持つ言葉で強い意志や思い、不屈の精神と決断力を意味している。精神的な取り組みを求めるのは、古い考えなのだろうか。これからも書き続けるだろうコラムの原点を考えた時、「職務の宣誓」を思い出す。

日本では、公務員等が任用されるときに、「職務の宣誓」に署名して任命権者に提出する宣誓書がある。文面は異なるが、警察職員、消防職員、自衛隊員、独立行政法人等職員、身近では消防団員もやっている。

私自身、消防団出初式の時、新入団員を代

表して宣誓を行った経験がある。当時、消防主任だった山岸美智男さんが暗記して宣誓し

ことを固く誓います。私は、地方自治体の本旨を体することにも、公務を民主的かつ能率的に運営すべき責務を深く自覚し、全体の奉仕者として誠実かつ公正に職務を執行することを固く誓います」

時、ゆとり教育への関心が深まり文部科学省が「地域間交流促進に関する研究会」を立ち上げた研究委員のメンバーとして参加した事があった。

と言葉を交わした事がキッカケだった。その後ゆとり世代の学力低下説でゆとり教育への厳しい視線が気になってきたが、ゆとり世代は、今回オリンピック等で大活躍している世代でもある。

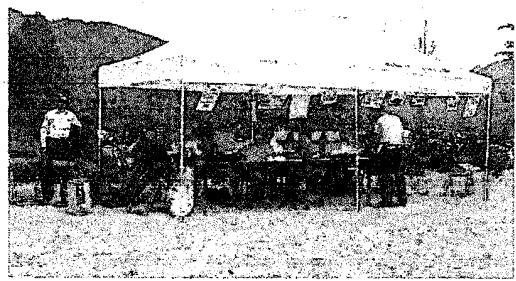
一斉集団指導から、個の尊重への発想の転換が誤りで無かった事実が開花したと信じている。ゆとり世代は、リーダーが気概を持って接すれば、個々で目標設定できる教育を受けている。この世代を、活気みなぎる環境にできるかが今問われている。

## 生かされている意識を何時も忘れないことが大切だと考えてみませんか

役場就職時は、宣誓書を読む経験だった。暗記した宣誓は、意義深い想いを長く持たせてくれた。是非、次の世代を担う皆さんに、暗記で宣誓する機会を期待したい。

白馬村役場在職当

に、地域交流のテーマで講義を受け持ち、同席した初等中等教育局サマージャンプ大会を支援する白馬村スキークラブテント。人を育てる強い気概が伝わってくる。



白馬村役場在職当